

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 八児 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

#### 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

#### 生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

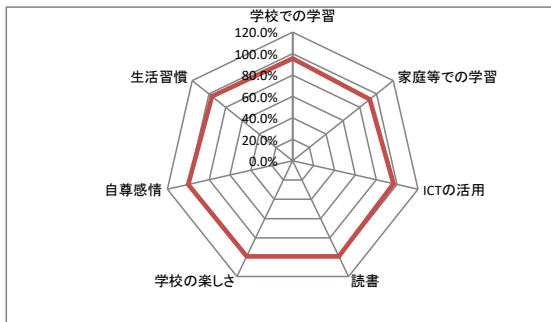
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	話すこと・聞くことの領域については理解できており、全国平均正答率を上回った。しかし、書くこと・読むことについては課題がある。特に文章表現の理解や文法にやや課題がある。語彙力が不足していることも関係していると思われるため、タブレットや辞書を活用し、語句の意味を調べさせたり、作文指導を行い、添削すること繰り返して行うことを通して、書くことに慣れさせる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題	
	努力が必要な問題	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う問題、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的にどの領域においても全国平均正答率を上回った。特に図形や関数の領域の正答率が高い。また、各領域内においても全国平均正答率を上回る問題が多数あった。しかし、連立方程式の計算や箱ひげ図の意味理解の問題など特定の課題で課題があるため、朝自習の時間や週末課題等の補充学習を通して、連立方程式や箱ひげ図等の問題に取り組む。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読みとる問題、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題	
	努力が必要な問題	簡単な連立方程式を解く問題、箱ひげ図から分布の特徴を読みとる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的にどの領域においても全国平均正答率を上回った。しかし、化学分野については、やや課題のある単元がある。また、知識を問われる問題は全国平均を上回る正答率の問題が多かったが、わずかに上回る程度であったため、実験等の視覚的なモデルを使用することで理解を深めさせる。グラフの読み取りは、数学科と連携し、関数のグラフの見方や意味理解ができるように指導している。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	化学変化に関する知識及び技能に関する問題、実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる問題、過去の大地の変動についての問題	
	努力が必要な問題	静電気に関する知識及び技能を活用できるかをみる問題、課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する能力が身に付いているかをみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
○「学校の楽しさ」「自尊感情」に関する肯定的な回答の割合は昨年度よりも高く、改善されている。これらの結果から生徒にとって八尾中学校での学校生活が充実したものになってきている生徒の割合が増えていると考えられる。	
○「読書」に関する肯定的な回答の割合は昨年度から大きく改善した。八尾タイム、総合、教科等様々な時間に活用しているNIEの取組や学校図書館職員による図書館のレイアウトの工夫等が要因と考えられる。	
○「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒が多く、キャリア教育等を通して、自ら将来を真剣に考えることができているため、学校行事等の様々な活動に対しても、前向きに取り組む姿が多くみられる。	
○「スマホ・携帯電話の所持率」が高く、長時間使用している生徒の割合も多い。このことから家庭学習の時間の少なさや生活習慣の乱れに繋がることが懸念される。	
○「就寝時間や起床時間が一定」と回答した生徒が全国平均と比べて少なく、規則正しい生活リズムを確立できている生徒が少ない。	

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

○今回の調査による正答率は、全国平均を上回るものが多いが、学習習慣の定着や教科に対する関心はさらに高めることができる状況である。家庭学習の充実と主体的・対話的で深い学びを実現し、学力の定着に努める。
○本校では、効果的なICT機器の活用や、生徒の思考を深める発問の工夫等をテーマとして授業研究を行っており、生徒の実態に合わせた魅力ある授業づくりを進めていく。
○正答率の低かった領域の内容に対して、基礎的・基本的な問題の意味理解の定着を重視することで、基礎学力の定着に努める。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○学校からの各種通信や保護者懇談会等の様々な機会を通して、生活習慣の確立や家庭学習の習慣化が心身の成長や学力向上の大きな要因となっていることを今後も発信し続けていく。
○SNSの使い方について、学校からは専門家を講師に迎えた講演会やテキストを使って、粘り強く家庭でのルールの確立を促していく。